

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分達で作上げた理念があります。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝スタッフ全員で唱和して、一日一日をリセットという気持ちでケアにあたっています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族や地域の方がおいでになったとき、玄関の掲示板やエレベーター、各フロアにすぐ見ていただけるように理念を張り出しています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣を散歩したり、近くのスーパーに買い物に行ったときなど、気軽に挨拶を交わしたりして親近感を持ってもらえるようにしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入させていただいており、夏祭りやおはら祭りなど、ホールの前で踊りを披露していただいたりして御互いの交流を深めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月一回の地域清掃に取り組んでいます。	○	今後どのようなことができるのか、職員間で話し合って生きたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「真に選ばれる施設として、どうあるべきか？」 自己評価、外部評価を通して、各スタッフがホームを作る一員としてどうあるべきか振り返る意義を伝えています。また、御指摘に関しては、スタッフ一同改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動や生活ぶりをお知らせしたりする中で、ホームに対する御意見等もいただきながら、地域にとけ込んだホームを目指すと共に、サービス向上にも繋げています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	四月以降、市町村担当者が運営会議に出席してくださるとの事なので、市町村との連携も深まり、サービスの質の向上も期待できと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度としては知ってはいるが、未だ利用された方は無く、これまでに相談を受けたことはありません。	○	これから勉強の必要があると思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な暴力、言葉の暴力等、人道的にまた法律にも禁じられた高齢者に対する虐待が起きることが無いように、厳重に注意しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書等を一緒に読み合わせをして、納得をしていただいたうえで契約を結んでいます。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設けており「いつでもご意見をお聞かせください」というメッセージをおくっています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご面会の折、随時、最近の様子はお知らせできています。金銭管理は、出納帳を確認していただいています。職員の異動についても、お知らせや紹介をしております。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	さしあたって、相談、苦情に至るまでの懸案が無いということもあり、第三者委員などを交えた家族会の実施はありません。しかしながら、外部評価の家族アンケートを参考にさせていただいたり、日頃の、御家族とのやり取りのなかで、忌憚の無いご意見を聞かせていただいています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議などで、現場の意見を聞いてもらっています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームの人員基準以外にも、必要に応じて、増員確保しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	いろいろな事情の中で職員の異動、退職は、致し方ない部分もあるとは思いますが、御利用者の方に迷惑がかからないように配慮ができていていると思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内や紹介をしてもらい、随時研修に参加しています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県、鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、随時勉強会・交流をしています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者による管理者に対してのアンケート調査等も実施され、働きやすい職場になるよう取り組んでもらっています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体の、認知症ケアに関する研修も先ごろ実施されたばかりです。多数の参加があり、また気持ちを新たにしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面談もさせていただいて、ご本人の意向に沿ったケアができるようにしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、施設の見学もして頂き、管理者・スタッフ・ホームの雰囲気などを見ていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用基準に沿って、説明をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	スタッフ全員が、認知症を理解しており、新しく入居された方 に合ったケアがなされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	認知症の人として捉えるのではなく、人と人のお付き合いとい う姿勢で、いろんな話をし、一緒に笑い、たまには慰めても らったり、教えていただくことも多いです。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	本人にとってどうあることがいいのか、ホーム側と家族がいつ しよに話し合い協力できる関係を築いています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	ホームに入られてからも、家族が気軽に面会にきていただい けるような雰囲気作り、声かけをしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	本人の希望を聞きながら、ふるさと訪問などを実施していま す。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	居室で過ごす時間も大切にしつつ、ホールでみんなと食事 をしたり、話したり、一緒にテレビを見たり、レクリエーションに 参加したりして過ごします。たまには、けんかもあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居理由はそれぞれですが、病院入院のケースでは、その後もお顔を見に行ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、スタッフの意見を集め、何を望んでおられるかの把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時、入居後、情報収集に努めて、スタッフが情報共有し、ケアにあたっています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフは、その方の健康状態、心の状態をよく観察し、適切なケアが行えるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成にあたっては、本人はもちろん、家族、スタッフの意見を聞く場を設けている(サービス担当者会議の開催)。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前、状態変化時に応じて、サービス担当者会議を開き、見直し、あるいは、変更のプランを作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面、生活面、その方のリスクその他記録をし、プラン作成の参考にしており、よりよいケアができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険の中のグループホームとして、対応できる場所はやっていきたいと思っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームとして、警察、消防の協力をお願いしています。(防災訓練など)また、中学校との交流もさせていただいています。(運動会応援、去年は、車いすを贈って頂きました。)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、ありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、ありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医で、受診していただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要と思われる方については、認知症に詳しい医師を受診、相談治療を受けられるようにしています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	いままでかかってこられた医療機関などを本人の希望に応じて利用していただけるようにしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の方の特性を捉え、環境変化の影響を少なくする意味でも、可能であれば早く、ホームへ戻っていただけるよう病院側と相談連携するようにしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期という話題を出す、タイミングがとりにくい。サービス担当者会議などの機会を捉え、重度化、終末期について話し合い、その時の方針について一緒に考えている。が、非常に微妙で、難しい問題であると感じている。その時々話し合いの内容は、スタッフとも情報共有できるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護度の高くなってこられた方もありますが、出来る限りここでお過ごしいただけることを願っています。終末期についての経験は今のところありません。医療ニーズが高くなってこられた場合、ホームでの生活は難しくなると思います。必要に応じ、家族とともにかかりつけ医に相談していきたいと思います。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方にとって、環境の変化はおおきなダメージとなるのでその方の、生活歴、性格などの情報を共有し、関係者が協力して、影響を出来るだけ少なくするようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉の暴力とならないように、相手の立場に立っての対応をしています。記録、個人情報についても慎重に取り扱っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いや、希望を言ってもらったり、こちら側が察したりと、納得してもらえるようにと考えて対応しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をベースに、ある程度規則正しい生活、張りのある生活をとは考えますが、一人一人の体の調子なども考慮して柔軟に対応するようにしています。希望、要望があったときはできるだけそれに沿うように心掛けています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ、おしゃれのおてつだいをしています。家族でカットしてくださる方もあります。また、近くの美容室に出かける方もあります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんそれぞれ、個別性がある、声かけ、案内により簡単な調理参加はありますが、職員中心の食事作りとなっています。それでも、食事を楽しみに、みんなで一緒に、笑顔の食事風景です。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	要望のある方については、対応しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方にあった、排泄の支援ができています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人員配置や、もろもろの事情で、週3回(火、木、土)の入浴日をもっています。その日の中で、特に入居者の希望(入る順番、時間など)があれば、対応するようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣、表情観察などで、疲れが見えたときなど、声かけし昼寝の時間をもうけたりしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな人、散歩の好きな人、テレビの好きな人それぞれ、好きなことの把握をして、それらを取り入れていながら生き生きと生活していただけるように心掛けています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方に対しては、お財布をもっただき、ご自分の好きなものを買いに出かけられるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の要望等あれば、一緒に出かけるようにしています。が、申し出のあることが少なく、こちらからの主導のことが多いです。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年は、ふるさと訪問で蒲生町に出かけました。(お墓参りを兼ねて。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も自由に使っていただけるようにしています。手紙を書いてみようという方は現在ありませんが、年賀状、暑中見舞いには取り組んでいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームの面会時間は特に設けず、いつでも、気軽に訪問面会していただけるようにしています。また、訪問時はゆっくり過ごしていただけるようにしています。(湯茶の提供などしています。)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束となるのか、スタッフ全員が理解し、身体拘束ゼロのホームにすることを誓っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が、自宅で暮らしておられた時と同じように、外出したい時に外出できるように玄関ドアにはカギを掛けないケアを実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通して、プライバシーにも配慮しつつ、入居者の状況把握に努め、容体変化や、怪我や事故も考えて見守りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活であるので、全体的な危険を考え、危険なものの除去、あるいは保管について、細心の注意を払っている。入居者一人一人の個別性、その日の状況に臨機応変に対応するようにもしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気づきノートなどを活用して、個別のリスクの把握をし事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の消防訓練とともに、救急時の対応の勉強会を実施しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣施設との連携を、訓練の中に入れて協力をもらうようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについての説明を、その都度あるいは、サービス担当者会議などでおこない、相談しながら対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、、食事や排泄もろもろの情報と観察により早めの異常発見と、対応ができるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病と薬のことをスタッフが理解し、服薬支援と症状変化の確認をし医療側と相談している。特に、新しく始まった薬など、効果や、副作用についても把握して、状態の観察を強化している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘により、不穏や混乱が起きているように感じることも多く、高齢者は、ちょっとした体の変調で認知症の症状が強くなる。便秘の予防のために、献立に野菜を多く取り入れ、散歩や、廊下歩行などの運動も取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個別的に、義歯洗浄や、歯磨きの見守り、介助を実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は皆さんよく食べていただいています。水分を取りたがらない方もありますが、スタッフの介助により、出来るだけ取っていただくようにしています。体調不良時、嚥下状態の悪い方などにも、状態に応じて配慮ができております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルがあり、実行しています。手洗い、うがい、環境整備など強化し、発生の場合、スタッフ一丸となって早期の治癒に向け取り組んでいます。(去年は、病院からかえって来られた方が疥癬との診断が出ましたが、他の方への感染も無く、早く治して差し上げることが出来ました。)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に関してスタッフが理解しており、調理前の手洗い、調理器具の清潔管理、食材管理を徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関アプローチには、たくさんの鉢花を置いています。(家族のご協力もいただいています)		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面ガラス張りの、開放感のあるホールで心地よく過ごしていただいています。採光については、カーテンなどで、こまめに調整をしています。また、季節の花、飾りつけなど工夫をして楽しんでいただいています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の方が、だれにも気兼ねなく、自分のペースで過ごしておられると思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその方の生活歴や、個性にそって、それなりに、居心地のよい空間となっていると思います。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やホールの換気に努め、新鮮な空気を取り入れています。空調も、冷やしすぎず、暖めすぎず入居者の方に合わせたレベルで行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室洗面台、ホールの洗面台に車いすが付けにくいなど、改良の余地はいろいろあるとおもいますが、諸事情にて改良は難しくハード面では現在の状況に甘んじているところです。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現在の環境が原因での混乱は、今のところ、無いと思います。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩、外気浴をしたり、園芸のできる環境です。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設してから5年半を経過しております。開設当初からの入居者の方が5名、3年の方が1名、2年の方が2名、今年1月に入居の方が1名です。それなりに年を重ねてこられてみなさんの今年の平均年齢なんと90.6歳となりました。こちらがお世話することもおのずと多くなり、特に健康管理に心を砕くことが増えてきています。そして、グループホーム本来の、一緒にご飯を作ったりみんなと一緒に出かけたりということがままたなくなってきました。でも、このホームの中で、穏やかに安心して過ごしていただいているという実感をもっています。これからもスタッフ一丸となって、皆さんの思い、家族の思いを大切にしながら、「笑顔あふれるはるかぜ西陵」を目指していきたいと思っています。